

ちいさな
おはなし

小高まあな

幸せを買いに行きます

「ちょっと幸せを買いに行ってきます」と告げて妻は出て行った。

それって今は幸せじゃないってこと？ 幸せってどこにあるわけ？

一時間程度で帰ってきた妻は、本屋の袋を持って帰ってきた。

「幸せって、よく本屋に売っているのよ。さて、今夜はこの本に載ってるパスタにしましょう」

大学入試

「今から解答用紙を配ります」

気合いを入れる。第一志望の大学受験。用紙を配る監督者。何故か俺の前でこけて、解答用紙をぶちまけた。

「ごめんなさい、滑っちゃった。わ、落としちゃったし」

照れ笑い。可愛い。ドジっ娘ってやつだなー、ってこういう人を試験監督にしないでくれっ！

飛べないのか、飛ばないのか

飛べない鳥を可哀想だ、と憐れみ、飛べるはずだ！ と謎の発破をかける。それは君、勝手に人間が「飛ぶ」ということに優位性を見いだしているだけじゃないのかい。飛ばない自由もあるはずなのに。それは結局、君が「飛びたい」だけなんじゃないか？

こんなツイッタードラマはいかが？

公式RTで流れてきた発言。なんか面白い人みたいでフォローした。ツイート見てると意外と近くに住んでいるみたい。知ってる地名も出てくる。そして私は気づいたの。この人は昔、私のことを傷つけたあの人だと。

.....さあ、どうやって復讐しよう。

燃やす

思い出は思い出として大事にした方がいいのかもしれない。

過去があって今があるのだから。過去からは逃れられないのだから。

それでも、私は、日記を燃やした。

ついでに、行方とかバレそうなものは全部燃やした。

さよなら、私の過去。

行方不明として届け出しておいて頂戴、ママン。

傷口

痛いと思ったら親指の腹を怪我していた。

紙で切った傷が口に見えて、その上目を描いた。

「コンニチハ」

親指が喋りだした。彼とのお喋りは楽しくて、一人の時間も忘れられた。でも彼は段々無口になって、そして消えてしまった。

一人になった私は寂しくて、そして...

もう寂しくないよ

紙切れ

息子がカードゲームにはまっている。

そんな紙切れに金をかけるなんてバカだと禁止した。

先日、息子が珍しく私の似顔絵を描いてくれた。くれるのかと思ったら、千円払えと言われた

。

「この絵も千円札もただの紙切れだよ」

と息子が膨れっ面して言った。

シャッター

シャッターがきられる度に私が減っていく。
私は私を切り売しているから。もういくらも残されていない。
そして最後のシャッター音。

突然倒れたモデルに悲鳴があがる。
カメラは少しずつ、被写体の魂を喰らうのだ。昔は常識だったのに忘れるから。
慌てる現場。
カメラマンの僕は笑った。